

米国経済の成長を見ると、スタートアップと呼ばれるベンチャー企業の果たしている役割の大きさを痛感する。GAF Aの名称で知られるグーグル、アップル、フェイスブック（現メタ）、アマゾンの4社は、その企業価値（株価で計った価値）の合計は日本の上場企業すべての企業価値を上回るような水準であるという。この4社の歴史は短く、最も古いアップルでも45年ほど前に創業した企業である。フェイスブックに至ってはまだ創業してから20年経っていない。

GAF Aの4社だけでなく、ウーバーやネットフリックスなど、次々に新興のスタートアップ企業が出てきて、急成長を続けている。デジタル分野だけでなく、バイオなどでもスタートアップ企業の活躍が目立つ。スタートアップ企業の力がなくては、新しい薬の開発は不可能にな

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

論壇

っていると云っても過言ではないだろう。

残念ながら、日本はスタートアップ企業の活躍で海外に大きく後れをとっている。日本経済が活力に乏しい大きな理由は日本におけるスタートアップの低調にある。そこで政府も日本でのベンチャービジネスの活性化に力を入れ始めた。岸田内閣では、山際大臣がスタートアップ担当

スタートアップ企業の重要性

大臣に任命され、スタートアップの育成に力を入れるという。萩生田経済産業大臣は訪米先のシリコンバレーで、日本からのスタートアップ人材をシリコンバレーに千人は送り込みたいと発言していた。

スタートアップの企業を増やすことの重要性は多くの人が指摘してきたことだが、なかなか進まない。若

者が就職先として大企業や公務員を志向してきたというところもある。スタートアップで失敗したらやり直すことが難しいという日本の慣行もある。ビジネスで何度か失敗したことが勲章となり投資家の資金を集めやすい米国とは大きく異なる。

ただ、ここに至って世の中は大きく変わりつつあるようだ。長年大学で教えてきたが、私のかつての教え子

の職業観にも大きな変化が見られる。10年ほど前までは、大企業や公務員志向が非常に強かった。安定しているし、それなりの給与をもらえるからだろう。

ところがこの10年ほどの間にスタートアップの世界に挑戦する教え子たちが増えている。すでに上場を果たして時価総額100億円をこえる

企業のオーナー経営者になった女性もいる。まだ30代の初めの若さなのに、新聞で取り上げられるようなスタートアップ企業を始めた女性もいる。

もちろん、スタートアップに飛び込むのは女性だけではない。シリアルアントレプレナーとして名前を馳せている男性の教え子もいる。シリアルアントレプレナーとは、次々にスタートアップを立ち上げてある程度成功したらその企業を売却してまた新しいスタートアップに取り組み、連続（シリアル）起業家（アントレプレナー）のことである。

現役の学生もそうした先輩の成功を見て、スタートアップに強い関心を寄せる学生も多い。こうした若者たちを見ると、日本も捨てた物でもないと感じる。10年後にスタートアップの流れがさらに広がっていることを願っている。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。